

銘傳大學 97 學年度研究所碩士班招生考試

應用日語學系碩士班

日本經濟試題(第四節)

(第 / 頁共 / 頁) (限用答案本作答)

可使用計算機 不可使用計算機

※注意:

1. 合計 100 点。回答は横書きにすること。
2. 問題の番号を正しく書いてから、回答すること。
3. 中国語または日本語による回答が可能である。
4. 一の「専門用語」は 40 文字以内、二の「設問」は 400 文字以内で回答すること。

一、「専門用語」: 次の専門用語を簡潔に説明せよ。(5%×10=50%)

- | | |
|----------|-----------------|
| 1、プラザ合意 | 6、雁行形態論 |
| 2、リストラ | 7、日本的経営の「三種の神器」 |
| 3、所得倍增計画 | 8、ドルの天井 |
| 4、ゼロ金利政策 | 9、傾斜生産方式 |
| 5、護送船団方式 | 10、失われた 10 年 |

二、「設問」: 次の 3 問から 2 問を選んで詳しく回答せよ。(25%×2=50%)

- 1、バブル崩壊後、日本経済は不況が長く続き、その脱出口が見えなかった。2001 年 4 月に小泉が首相に就任してから、竹中平蔵氏を経済財政担当大臣に起用し、聖域なき構造改革を標榜しながら、構造改革を強力に推し進めてきた。その改革の中味及び成果(又は影響)を説明せよ。
- 2、今年の 3 月 13 日に円相場は 1 ドル = 100 円を 12 年ぶりに突破し、それ以来一時的に 95 円台に入ったこともある。現在の円高は、米国の低所得者向け高金利型住宅ローン(サブプライムローン)問題に端を発する金融不安で、世界的にドル売りの動きが加速したことが原因だ。さらに円高が進めば、日本経済や産業界にどのような影響をもたらすのか、分析してみよ。
- 3、戦後日本の産業政策は、その経済発展にしたがっていくつかの時期に分けられるが、その推移及び各時期に置かれる重点について説明せよ(まず、各時期を区分してから産業政策の重点を述べよ)。

試題完